

いざという時のために

～地震情報と防災対応～

予知の可能性があるとされる東海地震。しかし、その前兆現象が捕らえられ予知ができたとしても、地震に対する備えが万全でなければ、ケガをしたり、命を落としかねません。また、仮に運よく助かったとしても途方に暮れる避難生活を送ることになります。

いざという時のために、東海地震に関する情報と災害発生に備えた防災対応（準備行動）を知っておくことが大切です。

○防災対応（準備行動）

東海地震注意情報	
市	市民
職員の緊急召集（約2/3の職員） 東海地震に関連した情報、防災関係機関の防災行動、市民のとりべき行動等に関する広報 原則、市民の利用する施設の閉館 園児、児童・生徒の下校開始（休校・休園の取扱いの開始） その他地震による被害の軽減に必要なとなる応急対策の準備	テレビ、ラジオを通じて正確な情報をつかむこと。また市の行う広報、消防署、警察などからの情報に注意する。 市の呼びかけや、国、県からのお知らせについては適切な行動をする。 食料、水、生活必需品など非常備蓄品のなどの準備を行う。 不要不急な旅行を控える。 その他地震の発生に備えた準備。

東海地震は確実に予知されるとは限りません。突発的に発生することもあります。

情報の種類

東海地震観測情報

東海地域の地震観測データに異常が現れているが、東海地震の前兆現象の可能性について、直ちに評価できない場合などに発表される情報。

東海地震注意情報

東海地震の前兆現象の可能性が高まったと認められた場合に、発表される情報。

東海地震予知情報

東海地震が発生する恐れがあると認められた場合に発表される情報。

大規模地震に備える

大きな災害が発生した場合、避難を余儀なくされます。しかし、被災直後は、あちこちで被災者の救援が必要とされたり、交通網がふさがれてしまったりするため、食料や飲み水、医薬品などの救援物資がすぐに届かない可能性があります。このため、数日間、自分たちの力で避難生活を過ごせるだけの備えが必要となってきます。日ごろから、最低3日間がしのげる非常用食料や飲み水を準備しておき、避難の際には、持ち出せるようにしておくことが大切です。

地震発生！ その時

一瞬の判断が生死を分けることでもあります。難しいことですが、まず、落ち着いて冷静に行動してください。

身の安全の確保

家具が倒れたり、電燈が落下したりするなどの危険があります。机の下などに急いで



もぐり込み、身の安全を確保しましょう。揺れが激しくて動けない場合は、布団や座布団で頭を保護してください。

火災は2次災害

をうみます。すぐに火が消せる場合は、火の始末をお願いします。もし、揺れが激しい場合や余裕がない場合は、無理をせずに身の安全を優先し、揺れの合間を見て火の始末をしてください。また、ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜いてください。



非常脱出口を確保する

地震の揺れによって、出入口が

開かなくなることがあります。ドアや窓を開けて逃げ道を確保しましょう。特に、耐火構造の集合住宅などは注意が必要です。火が出たらすぐ消火を



火が出ていたら大声で知らせ、隣近所にも協力を求め消火に努めましょう。天井に燃え移る前ならば、初期消火が可能です。



外へ逃げるときはあわてずに瓦や窓ガラスなどが落下する危険があるので、むやみに外へ飛び出さないでください。しかし、家屋の倒壊や火災の危険がある場合は、落下物に注意してすぐに避難してください。

市は、市民皆さんのための防災対策として木造住宅の耐震診断、民間木造住宅耐震改修費補助事業、ブロック塀等撤去事業補助金、家具の転倒防止器具設置事業を行っています。詳しくは建築住宅課（66 1132）または安全安心課（66 1156）へ。